



スタッフは宝。 高き理想を掲げ 高齢者福祉に貢献する。

社会福祉法人正覚会

山形県酒田市において4つの事業拠点で14の高齢者福祉事業を展開。
社会福祉法人のトップとして「ご利用者」「地域社会」「職員」それぞれに対する責任
を自らに課し、業務遂行のため、縦密でかつ、人に寄り添った施策を実行する。

創設時の高き理想を継承する

社会福祉法人正覚会は、酒田市に代々続く篤志家、池田家代11代目池田信也氏が、酒田市内における高齢者福祉サービスの充実をもって地域貢献を果たすべく、平成10年に「社会福祉法人正覚会」を発足。平成12年には特別養護老人ホームを中核に、ショートステイ、デイサービス、在宅介護支援センターを併設した「ライフケア黒森」を開設する。その後、地域からの要望もあり、「ライフケア黒森」のほか「北のかがやき」「こもれびの郷」「こもれびの郷浜中」と4つの事業拠点において14事業を開設する。さらには、酒田市からの委託により地域包括支援センターかわみなみを運営している。

酒田市との結びつきを何よりも大切にし、地域福祉の充実に意欲をもって務めてきた信也氏だったが、平成24年に志し半ばで急逝。その遺志を継ぐべく、信也氏の妻・美千代さんが理事長に就任。幹部職員と共に、理想郷実現の

ために努力を重ねている。

ゆかりの地・酒田への 熱き想いが原点

『「スタッフは宝。共に働く職員すべてが私の誇り・・・』法人設立者であり、夫である故・池田信也の口癖でした。義父・池田正夫の代に酒田を離れ、横浜で暮らしていましたが、親戚も多く、先祖代々のお墓もある酒田は本人にとって故郷同然。いや、それ以上に愛着のある地でした。それゆえ、酒田は私にとって大切な地。前理事長の創設理念に感銘し、以来、法人運営を支えていた幹部職員をはじめ、ともに働く180名余のスタッフと心をひとつにして取り組むことが私の責務と強く感じて



います』と池田理事長。

社会福祉法人を運営する者にとって、三つの責任を遂行することが義務とも語る。まずは「ご利用者に対する責任」。次に雇用、消費活動等を通じて地元に貢献する「社会に対する責任」。そして、スタッフの人生を担う「職員に対する責任」。これら三つの責任を全うすべく、法人として事業を健全に成長発展させるため「共同」「探求」「創造」の経営理念を掲げ、自らを厳しく律することで、トップとしての責務遂行を実現している。

スキル、知識より、 まずは人間形成から

「人材の育成はじっくり時間をかけ



TSR DATA

社会福祉法人 正覚会

山形県酒田市黒森字霞葉山54番10
TEL.0234-92-3355
FAX.0234-92-3368
<http://syokaku-lc.com>

て』というのが信念。新人の初期研修はおおむね3年が目安。特に重視するのが社会人としての基礎形成。挨拶、所作、言葉遣い・・・。社会福祉法人正覚会のスタッフとしての自覚が生まれてこそ、知識、スキルが福祉現場で役立つという考え方だ。逆を言えば、知識、スキル、経験があっても「正覚会」としての自覚に欠けるスタッフは意識改革が求められるという厳しさもいとわない。

法人としての方針、 情報を全職員が共有化

介護保険制度はおおむね3年ごとに大きく変わることから、毎年3年先を見越した事業計画を策定。法人としての事業計画を開示すると共に、法人創設の目的、考え方や方向性、規約等を一冊にまとめた資料を全スタッフに配布している。これにより、スタッフ全員が情報の共有化を実現すると共に、日々の業務で悩んだ時、自らの今後を考えた時、また、仕事への意欲、自分自身の存在意義に悩んだ時、法人としての目標や求められる人間像を再確認できるようになっている。

「意欲を持ってこの世界に飛び込んできたものの、理想と現実のギャップに悩むことが多いのが私たちの仕事。聖職とも評される福祉・介護の世界ですが、それに携わる私たちは聖人君子



ではありません。ベテランといえども、いや、ベテランの方ほど一度悩むと奥が深い。「困っている方を助けたい。サポートしたい」。純粋で優しい性格の方々によって支えられている業種ゆえ、スタッフのケアも重要となるのです」。

なんと82歳のスタッフも。 すべては最高の福祉のため

スタッフに関しては人間性重視ゆえ、性別、キャリア、年齢は不問。事実、生え抜き社員の最高年齢は68歳。介護補助などを担うパートスタッフの中には80歳超で採用。82歳の現役スタッフもいる。「施設利用者の方々が心身ともに健全な生活を送っていただくためには、コミュニケーションが一番大切。何でもいいんです。世間話でも、愚痴でも・・・。会話をすることが一番です。そのお相手はやはり同世代のスタッフがベスト。若い人にしか出来ない仕事もある一方で、同世代だからこそできる仕事もある。介護の理想は適材適所なんですね」と池田理事長。

新人もベテランも、サポートメンバーも正職員も、それぞれをリスペクトし「お互い様」と自然に言える環境。施設のご利用者にとっての理想郷は、そこで働くスタッフにとっても理想郷であるべき。福祉の原点は常に「人」に寄り添うこと。これもまた法人設立以来の共通規範のひとつなのである。



進路未定でも インターンシップ大歓迎

「生徒さん、学生さんは、インターンシップなどを利用してまずは、当施設を実感していただきたいですね。就職担当の先生から「内定が決まった先にインターンシップを申し込むこ

社会福祉法人 正覚会
理事長 池田美千代
IKEDA MICHIO
神奈川県生まれ。
その温かな人柄からは想像できないかもしませんが、福祉を介した地域貢献、酒田への想いを、約2時間かけて熱く語っていました。